

GIP-TRIAD

Newsletter

Nov. 2017

Vol.

3

CONTENTS

1 はじめに

2 活動紹介

…… 国際ジョイントディグリープログラム・
人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻が始動

…… ボルドー大学、ボルドーサイエンスアグロ、
INRA ボルドーセンター一行が本学を訪問

…… 筑波大学・秋季海外留学フェア開催

3 編集後記



GIP-TRIAD HP



1 / はじめに

2017年9月より国際連携食料健康科学専攻 (GIP-TRIAD) が正式に開設しました。ボルドー大学、国立台湾大学からの学生受入も滞りなく行うことができ、大きな問題もなく無事に3大学連携のジョイントディグリープログラムをスタートしました。本教育プログラムの設置にあたり、ご尽力いただきました皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

本号では、GIP-TRIADについて改めて紹介するとともに9月から11月にかけて実施した GIP-TRIAD学生の活動、TGSW2017におけるキックオフシンポジウムについて報告いたします。

2 / 活動紹介

… 国際ジョイントディグリープログラム・人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻が始動

筑波大学大学院・人間総合科学研究科では、平成29年9月に国際ジョイントディグリープログラム (JDP) として、国際連携食料健康科学専攻 (修士課程) を開設しました。本専攻は、本学、国立台湾大学 (台湾)、ボルドー大学 (フランス) の3大学が実施する本邦・アジア・欧州共同の学位プログラムで、各大学からの学生がともに3大学で地球規模課題である「食と健康」について学修します。

9月1日から9日にかけて国立台湾大学およびボルドー大学からの学生は、第1セメスター (1学期：9月～2月) を過ごすことになる筑波大学に、それぞれの大学から到着しました。本学では、チューター制度により、来日した留学生が円滑に生活面のセットアップ (宿舍への入寮、銀行口座の開設、携帯電話・保険加入等の諸手続き) を行うことができるよう配慮しており、本専攻においてもチューターによる両大学からの学生の支援を行いました。また、本専攻では、海外からの学生は同じ宿舍に入居することを推奨しており、学生が互いに協力し滞りなく新しい学生生活を開始しました。



左、中央：GIP-TRIAD 学生受入



右：GIP-TRIAD学生とチューター学生の顔合わせ



その後9月11日から、3日間にわたり3大学の学生に対するイニシエーションセミナーを開催し、オリエンテーション、自己紹介、懇親会、グループワークを行い、学生および教職員間の親睦を図りました。9月14日、15日には、フードセキュリティおよびフードセーフティの理解を深めるために、エクスカーションを実施しました。株式会社トーヨーエネルギーファーム様にご協力いただき、レタス水耕栽培施設およびソーラーシェアリング・営農型発電施設の見学ツアーを実施しました。また、14日の午後には、つくば市の「食と農の科学館」を見学し、専門ガイドより日本の研究機関における「食と農」に関する取り組み・成果について説明を受けました。本フィールドワークは、3大学の学生がお互いの文化の違いや思考を共有する場となっただけでなく、学生の緊張感を和らげる良い機会となりました。9月19日からは、TGSW2017における学生発表に向けて、3グループに分かれ、「食と健康」に関する課題とその解決策について議論し、発表準備に取り掛かりました。



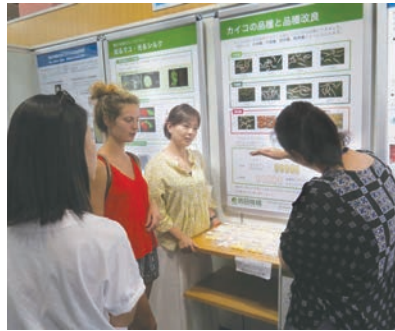
イニシエーションセミナーにおける集合写真



上段、中段：イニシエーションセミナーにおける自己紹介の様子
下段：懇親会の様子



トヨエエネルギーファームの水耕レタス栽培農場とソーラーシェアリング・営農型発電施設を見学



つくば市の「食と農の科学館」を見学



グループワークの様子

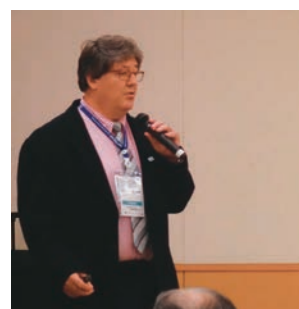
そして、9月27日にはTGSW2017 Campus in Campusジョイントセッションである「国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウム: Kick-off Symposium for International Joint Degree Master's Program in Agro-Biomedical Science in Food and Health」において、本専攻発足の記念式典が行われ、3大学の代表 (永田恭介 筑波大学・学長、Tei-Wei Kuo 国立台湾大学・副学長、Vincent Dousset ボルドー大学・副学長) より祝辞を賜りました。その後、熊谷嘉人専攻長より本専攻概要の紹介、3大学の本専攻担当教員 (大庭良介 筑波大学・准教授、Tsai-Kun Li 国立台湾大学・教授、Dominique Rolin ボルドー大学教授) による各大学における学修内容の紹介が行われました。学生セッションでは、各学生グループによる素晴らしいプレゼンが行われ、会場の参加者から多くの質問が飛び交う活発なセッションとなり、今後の発展の可能性を大いに感じさせるものになりました。10月から本格的に始動する講義、特定課題研究をはじめとし、本専攻の特色を生かした今後の学生活動が大いに期待されます。



TGSW2017 国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウム・記念式典



TGSW2017 国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウム・記念式典



TGSW2017 国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウム・各大学の学修内容の紹介



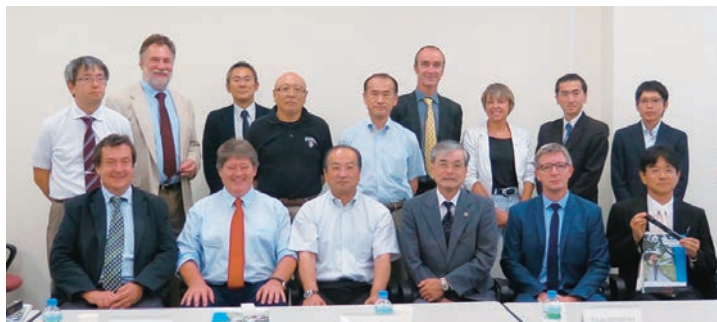
TGSW2017 国際連携食料健康科学専攻発足シンポジウム・学生セッション



TGSW2017 学生セッション後の集合写真

... ボルドー大学、ボルドーサイエンスアグロ、INRAボルドーセンター一行が本学を訪問

9月25-27日に、ボルドー大学健康生命科学研究科、ボルドー・サイエンスアグロ (Bordeaux Sciences Agro, BSA)、INRAボルドーセンターの一行が GIP-TRIADならびにボルドーオフィスの招聘で来学しました。BSA は農業科学分野の国立大学校で、連携大学院や融合研究ユニット (UMR) などを通して教育・研究の両面においてボルドー大学、INRA と緊密に連携しています。その構成員は、本学がボルドー大学や INRA と展開しているジョイント/ダブルディグリープログラムや日仏ジョイントラボなどの活動にも間接的



生命環境系幹部との懇談会 [前列左よりAntoine de Daruvar 教授 (ボルドー大学健康生命科学研究科長)、Dominique Rolin ボルドー大教授、江面浩 教授 (T-PIRCセンター長)、松本宏 教授 (生命環境系長)、Olivier Lavalie BSA 校長、北村豊 教授 (生物資源学類長)、後列左より 松倉千昭 教授、Thierry Candresse 博士 (INRAユニットディレクター)、森健太郎 ボルドー大准教授、渡邊和男 教授 (T-PIRC副センター長)、戒能洋一 教授 (T-PIRC副センター長)、Jean-Philippe Fontenelle BSA教授 (国際交流担当)、Catherine Bennetau BSA教授、野村名可男 准教授、岡部佳弘 助教]

に参画していますが、これまで本学とは直接交流がありませんでした。そこで本学と提携の可能性を探るため、TGSW2017 に合わせて BSA 校長 Olivier Lavalie 教授、国際交流担当 Jean-Philippe Fontenelle 教授、国際連携食料健康科学専攻のボルドー側の中核教員の一人である Catherine Bennetau 教授を招聘しました。また、ボルドー大学から博士課程健康生命科学研究科 (Doctoral School of Health and Life Sciences) ・研究科長の Antoine de Daruvar 教授 ならびに国際連携食料健康科学専攻のボルドー側中核教員であるDominique Rolin 教授、森健太郎 准教授、INRA ボルドーセンターからUMR1332ユニットディレクターの Thierry Candresse 博士、Norbert Bollier 博士が来学しました。Antoine de Daruvar 教授、Thierry Candresse 博士については今回が初めての本学訪問であり、一行は25日午前中に松本宏生命環境系長、北村豊生物資源学類長、江面浩つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 長を始めとする生命環境系幹部と懇談し、BSAとの今後の連携や、現在、生物資源科学専攻で実施している修士ダブルディグリーの博士課程への拡充の可能性について意見交換を行いました。また、午後にはT-PIRC 遺伝子実験センターおよび農場を視察しました。

26日はCaroline Benton国際担当副学長を表敬訪問すると共に、TGSWのT-PIRC主催シンポジウム “Leading University Forum on Plant Resilience and Innovation” (Norbert Bollier 博士が講演) へ出席しました。また、27日は永田学長、Vincent Doussetボルドー大学国際担当副学長らを迎え開催した国際連携食料健康科学専攻のキックオフシンポジウム (Dominique Rolin 教授が講演) へ出席するなど、精力的に訪問日程をこなし、28日に本学を後にしました。

Antoine de Daruvar 教授、Thierry Candresse 博士らは今回が初めての本学訪問であり、幹部クラスの交流を図ることで、今後、生命環境系、生命環境科学研究科とボルドー大学、INRAの連携がより一層深化していくことが期待されます。また、BSAは今回の訪問を端緒として、今後、実質的な交流を始める予定です。



生命環境系幹部との懇談会



左上：T-PIRCの紹介を行う江面浩 教授

右上：T-PIRC 遺伝子実験センターを視察

左：Caroline Benton 国際担当副学長を表敬訪問 [左より廣瀬武志 教授(国際室)、5人目・熊谷嘉人 教授(国際連携食料健康科学専攻長)、右隣・Benton 副学長、4人において大根田修 教授(国際室長)、木島譲次 教授(ボルドーオフィス管理者)]

筑波大学・秋季海外留学フェア開催

2017年10月25日、筑波大学において秋季留学フェアが開催されました。GIP-TRIADからは、教職員6名(松倉千昭 教授、阿部淳一ピーター 助教、秋山雅博 助教、岡部佳弘 助教、GIP-TRIAD 事務スタッフ 荅昌子 氏、王尤妹 氏)が参加しました。ジョイントディグリー/ダブルディグリープログラムコーナーにブースを出展しました。生物資源学類生を中心に、地球学類、社会学類などの学生がブースを訪れました。多くの学生がGIP-TRIADに応募してくれることを期待します。



3 編集後記

本号は、GIP-TRIADが始動して最初のニュースレターとなります。今後はこれまでの教職員の交流に加え、GIP-TRIAD学生の活動を中心に情報発信を致します。ウェブサイトの更新、Facebookの開設、リーフレットの作成など広報活動を充実させていく予定であります。皆様にとってより有益なニュースレターにしたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等ございましたら、以下の連絡先へ問い合わせください。

筑波大学 生命環境系 助教 岡部佳弘

【連絡先】〒305-8575 茨城県つくば市天王台1丁目1番地1 筑波大学医学エリア4E棟6階 610

E-mail: gip_info@un.tsukuba.ac.jp / Tel: 029-853-3228